

興福寺旧一乗院の調査(平城第330次)



興福寺旧一乗院の発掘現場

奈良地方裁判所庁舎建て替えに伴う発掘調査です。調査区は北側の試掘調査区と南側の本調査区に分かれ、試掘調査区の面積が165㎡、本調査区は583㎡です。試掘調査区は6月18日から7月17日まで調査を行い、土坑6基、溝2条、厚さ1m以上に及ぶかわらけの堆積層を確認しました。この堆積層は、中世に多量のかわらけをこの場所に廃棄、集積することによって形成されたと考えられます。

本調査区は7月25日から調査を開始しました。これまでに池や築山など、庭園に関連する遺構を確認しています。池には上層と下層があり、築山も土の違いや遺物の時代から、増築がおこなわれたようです。池と築山の関係など、庭園全体の変遷については、今後の調査で整理していく必要があります。

(平城宮跡発掘調査部)